

令和7年度全国学力・学習状況調査における 北九州市立枝光台中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科）に関する調査」、「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

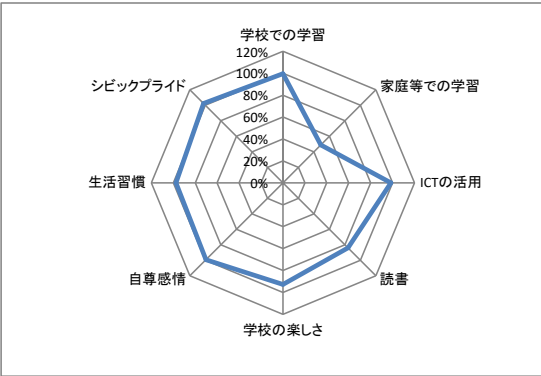
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」について、どの内容もほぼ全国平均正答率とかわらない正答率になっている。	全国平均正答率との比較
			下回っている
	よくできた問題	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	「A 数と式」「B 図形」「C 関数」「D データの活用」について、どの内容も全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較
			下回っている
	よくできた問題	必ず起こる事柄の確立について理解しているかどうかをみる問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子を柱とする領域」の問題の平均正答率は、全国平均正答率より高い。しかし、「エネルギーを柱とする領域」の問題の平均正答率は、全国平均正答率より低い。	全国平均正答率との比較
			下回っている
	よくできた問題	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「月曜日から金曜日に、一日どれくらいの時間、読書をしていますか」の問いに対して、30分以上と回答した生徒は約33%、10分以上と回答した生徒は50%以上で、全国平均と比べても高い割合となっている。
・「将来の夢や目標を持っていますか」との問いに対して、約70%の生徒が肯定的な回答をしていて、全国平均と比べても高い割合となっている。
・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、一日どれくらいの時間、勉強をしていますか」の問いに対して、1時間以上と回答した生徒の割合は23%で、全国平均の52%と比べても低い割合だった。「全く勉強しない」と回答した生徒の割合は25%で、とても高い割合だった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

主体的・対話的で深い学び（ペアワーク・教え合い）の強化
・課題解決型の問題を提示し、グループで解法を説明し合う時間を多く設ける。
・「振り返りシート」の活用強化
・授業の最後に、その時間の「わかったこと・わからなかったこと」を記入する活動を強化する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

生徒にとって「家で何をすればいいかわからない」「机に向かうハードルが高すぎる」という状況を教職員が強く認識し、家庭学習で取り組める「授業の復習プリント」「基本課題」「タブレット課題」を考え、短い時間でも家庭学習を行う習慣をつくる。
